

心臓血管病治療法は

飯田で信毎健康フォーラム



「心臓血管病の予防と治療」をテーマに開いた信毎健康フォーラム＝飯田市内のホテル

「心臓血管病の予防と治療」をテーマにした第四十一回信毎健康フォーラム（信濃毎日新聞社、信毎文化事業財団主催、信大医学部協力）は十二日、飯田市のシルクホテルで開いた。約二百五十人が聴講、心筋梗塞（こ

うそく）などの病状や治療方法などについて学んだ。

「内科医の立場から」として解説報告した信大病院循環器内科教授の池田宇一さんは、心臓病が日本人の死因の二位になっている現状を指摘。食

生活の欧米化を要因の一つに挙げながら、狭心症や心筋梗塞（こころそく）の病態を説明し「生活習慣の改善が、きょうからできる実践的予防」と述べた。

「血管外科医の立場から」として解説報告した信大病院心臓血管外科講師の福井大祐さんは、同病院での手術例を紹介しながら、動脈瘤（りゅうじょう）、動脈閉塞（へいそく）性疾患を中心に説明。「動脈瘤手術では、患者の高齢化、（症状の）複雑化の傾向がある」とし、四月中旬に同病院が開設を予定している先端心臓血管病センター外来も紹介した。

後半は、飯島裕一・本

社編集委員の司会でパネルディスカッションを行った。池田さんは「狭心症や心筋梗塞の八―九割は、胸痛の特徴ですぐに分かる」と述べ、症状について詳しく説明。福井さんは、血管再生医療として動脈閉塞性疾患に対して行う「自己骨髄細胞移植」について「信大病院では十例あるが、いずれも効果を上げている」と述べた。

聴講者からは質問が相次ぎ、心臓血管病への関心の高さを示していた。

【フォーラムの詳細は18日付で特集します】